

# 明治大学ラグビー部大学選手権優勝 ～王座奪還への道のり～



**7年ぶり14回目  
優勝**

日本一という目標を達成して感じたことは、大きな喜びと感謝の気持ちです。シーズンを通して決して順調なことばかりではなく、結果が思うように出ずに悩んだ時期や自分たちの未熟さを突きつけられる試合がありました。そのたびにチーム全員で向き合い、逃げずに話し合い、厳しい練習を積み重ねてきました。その一日一日の積み重ねが日本一という結果につながったと思います。準決勝、決勝では、自分たちがやってきたことに対する自信のほうで勝っていました。またこれまで支えてくださった父母会、スポンサー企業様、ファンの方々、そしてなにより共に練習してきた仲間の応援が背中を強く押してくれ、最後まで戦い抜くことが出来ました。日本一という結果は一つの到達点ではありますが、自分たちが一年間やってきたことが間違っていたという証明するものでもあると思います。この経験を活かして、今後も成長し続けて次のステージでも頑張りたいです。

## ～秋田県出身者の活躍～



大学選手権を振り返って  
4年経営学部 柴田竜成

◆優勝トロフィーを手に、最高の笑顔の二人◆  
最上選手（左）と柴田選手（右）



## 日本一奪還のご報告

明治大学 商学部4年 最上太尊

4年前明治大学ラグビー部に進み「日本一になる」と決意して入学しましたが、なかなか優勝には手が届かないまま4年生になっていました。

個々の選手の能力は高いのですが、チームとして上手に機能していませんでした。

そんな状態で対抗戦が始まり、初戦の筑波大学戦を落としてしまいました。

筑波戦後の部内ミーティング時にAチームに対して「こんな試合するならBチームを出した方が良いでしょう」と言われました。この言葉は衝撃的でした。

キャプテンの平はとも苦しかったと思います。

Aチームだけで6時間以上話し合いをしました。今までの取り組み、やり方、意識、全てを変えていこうという結論になりました。

それからは個の力量に頼るのではなく、選手全員が同じ意識で力を合わせるラグビーを目指しました。掲げたスローガンは「オールコネクト」です。

それから毎試合ごとに作戦やプレーの修正をはかり、徐々に形になってきました。下馬評では4位だろうと言われていた対抗戦も1位通過出来、選手権に臨めました。

迎えた選手権の京都産業大学戦では、前半押し込まれる展開になりましたが、明治はスタミナでは上回っているので焦りはありませんでした。後半にしっかりと攻めて突き放しました。決勝の早稲田戦は緊張しました。早稲田も帝京大学を破り調子を上げてきていたもので、早稲田の試合のビデオを見てチームで数時間作戦の確認を行いました。

試合は明治のディフェンシブな作戦と強い接点でのボール奪取がはまり、優位に展開出来ました。何度か崩されましたが、焦らず仲間とやってきた事を信じて笛が鳴るまで戦いました。そして、7年ぶりに日本一を奪還できました。勝っても負けても応援してくれた明治大学OB並びに関係者の皆様に感謝申し上げます。

ありがとうございます。

## 【編集後記】

「第62回全国大学ラグビーフットボール選手権大会優勝」  
同じ将軍野中学校で切磋琢磨した二人が、大学ラグビーの最高峰で共に紫紺のジャージをまとい、日本一を掴み取った姿には涙が止まりません。

秋田の伝統を背負い、秋田工業高校から明治の門を叩いた柴田竜成選手そして、宮城の仙台育英高校へと進み、さらに遅くなって再会した最上太尊選手。

柴田選手の冷静かつ献身的なゲームメイクと、最上選手の圧倒的な推進力。中学時代からの絆が、国立競技場という大舞台で「優勝」という最高の結果として結実したことは、秋田のラグビー界にとって計り知れない希望です。

二人の「秋田魂」が刻まれたこの勝利。本当におめでとうございます。



【編集】  
明治大学  
秋田県父母会  
【注意事項】  
写真の無断転載・転用はご遠慮ください。